

科 目 名		学年	
分析化学Ⅱ : Analytical Chemistry II		2C	
教 員 名 小倉 薫 : OGURA Kaoru			
単 位	授 業 時 間	科 目 区 分	授 業 形 態
1	90分×15回	履修	講義・後期
学修単位 —			
授 業 概 要 化学分析に必要な基礎的な理論と操作の原理について説明する。また、分析化学Ⅰ、無機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び無機分析化学実験Ⅰ、Ⅱと合わせて分析化学に関する知識の有機的連携を目指す。			
到 達 目 標		評 価 方 法	
(1)中和反応・酸化還元反応を理解する。 (2)中和反応や酸化還元反応の濃度計算が出来る。 (3)容量分析の計算が出来る。		①中間試験 40% ②期末試験 50% ③レポート 10%	
学 習 ・ 教 育 目 標		(A)	JABEE基準1(1)
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	中和反応と濃度計算1	中和反応とは何か(p.54-56)
	第2	中和反応と濃度計算2	中和滴定による濃度の求め方(p.56-63)
	第3	酸化還元1	酸化とは、還元とは?(p.64-68)、 酸化数とは?(p.70-77)
	第4	酸化還元2	酸化・還元の半反応式(プリント配布)
	第5	酸化還元3	酸化還元の全反応式(プリント配布) 酸化還元滴定(p.94-95)
	第6	pHの概念および化学平衡	水の電離平衡、水素イオン指数-pHの定義 (p.124-128)、化学平衡(p.128-133)
	第7	弱酸と弱塩基1	強酸・強塩基溶液のpH(p.136-140) 弱酸・弱塩基の解離平衡(p.134-136)
	第8	中間まとめ	中間まとめを行う
	第9	弱酸と弱塩基2	中間まとめの解説を行う 弱酸とその塩の混合溶液中の水素イオン濃度 およびpH(p.140-147)
	第10	弱酸と弱塩基3	弱酸溶液中の水素イオン濃度およびpH (p.148-151)
	第11	錯生成反応	錯体とは何か?(p.158-160)
	第12	キレート滴定	キレート滴定法とは?(p.160-162)
	第13	溶解平衡	溶解平衡と溶解度積(p.162-167)
	第14	分配平衡	分配平衡と溶媒抽出(p.168-171)
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。また授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容		予習および復習をすること。成果をレポートで確認する。	
関連科目		化学A	
教科書		立屋敷哲著 溶液の化学と濃度計算 丸善発行	
参考書			
授業評価・理解度		最終回に授業評価アンケートを行う	
副担当教員			
備考		再試験は行わない。もし、実施する場合は本試験の得点を加味する。	